

三年学年だより

No. 10

1月号

令和8年1月発行

308HR

自分の『これだ』を見つけない

クラスではときどき話していますが、私は村上春樹の本をよく読んでいます、いわゆる村上主義者です。村上春樹について、小説もちろん素晴らしいのですが、エッセイも興味深いものが多くあり、読者が村上春樹に質問を送り、それに対しての村上春樹の回答をまとめた『村上さんのところ』という本があります。その中の質問で、「僕は必死になれるものはありません。今はとりあえず大学に入ろうと勉強していますが、なんで勉強しているんだろう？ とよく思います。夢がないのに果たして勉強する意味はあるのだろうか。村上さん、どうしたら自分のこれだというものを見つけることができますか？ それとも僕が甘えているだけでしょうか？」（一部省略）というものがあり、それに対して村上春樹は「甘えているとは思いませんよ。自分が本当にやりたいことがまだ見つからない——それは普通のことです。19歳でそういうものが見つけられている人の方がむしろ少数派です。これからがんばって見つけてください。ただ、僕は思うんですが、本当にやりたいことというのは、あなたがそれを見つけるよりは、向こうがあなたを見つけることの方が、可能性としては高いのではないかな。僕の場合もそうでした。僕が『小説家になりたい』と思ったのではなく、向こうが『村上くん、小説を書いてみたら』と持ちかけてきたのです。そういうことは多かれ少なかれ、遅かれ早かれ、あなたの身にも起こるかもしれません。それを見逃さないようにすることも大事です。下手をすると見落としてしまうから。いつも目をしっかりと開け、耳を澄ましていること、それが大事です。」という回答をしています。やりたいことについて、向こうがあなたを見つけてくれる、というのは少し不思議な表現に聞こえるかもしれません。でも、案外そういうものではないかと思います。ここで大事なことは、見つけてもらうにはぼんやりとしていてはいけない、ということです。日々目の前にある、やるべきことをしっかりとやっていくこと、そうすれば、『やりたいこと』が見つけてくれるのだと思います。これもクラスでは話したと思いますが、私は30歳を過ぎてから教師になろうと思い、それから大学に入りなおして、35歳くらいの時に教員免許を取って教師になりました。私の場合は『やりたいこと』に見つけてもらうのに少し時間がかかりましたが、みなさんもいつか『やりたいこと』に見つけてもらえるよう、まずは受験に向けて、これからの高校生活、日々努力して過ごしてください。

引用文献 村上春樹『村上さんのところ』新潮社 2018年

(308HR担任)

『86400』

『86400』この数が何かわかりますか？

この数は、毎日あなたに与えられるものです。そして、どんどんと減っていきます。減るのを止めることはできません。数を増やすこともできません。1日の終わり、数が『0』になると同時に、また『86400』が与えられます。何かわかりましたね。そう、『86400』は1日の秒数です。

これは、ある学校の生徒が書いた作文の一部です。毎日与えられる「86400秒」の使い方はあなた次第です。よく勉強ができて人、いつもゆとりを持っている人も、同じ「86400秒」しか与えられていませんが、その使い方に差があるのかもしれません。これからの「86400秒」を、あなたはどのように使っていきますか？

過ぎた時間は取り戻すことができません。これからの「86400秒」、自分にとって納得のいく使い方をしていきましょう。

(308HR副担任)